

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	農業集落排水事業特別会計	035	款	01	項	01	目	01
事務事業名	大仙市農業集落排水事業								
担当部署	上下水道部下水道課	1502000	電話	0187-63-1111			内線	282	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	04:生活の基盤が整ったまちづくり
	施策の大綱	05:下水道等の整備
	施策	01:生活排水処理対策の推進
	施策の内容	02:農業集落排水事業の推進
根拠法令等	大仙市農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例並びに条例施行規則	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	農業用排水の水質保全及び農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全を図るため。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	集落排水区域内の世帯及び事業所
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	農業集落排水事業区域内の管渠を整備し、適正な維持管理を実施する。 ①農業集落排水工事の計画、設計及び監督 ②受益者分担金賦課徴収 ③農業集落排水施設の維持管理 ④排水設備等確認事務 ⑤農業集落排水使用料検針事務
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	農業集落排水の整備により、生活環境の向上、公共用水域の水質保全が図られる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 農業集落排水接続世帯数	世帯	3,337	3,539	3,761
	② 農業集落排水処理区域内人口	人	20,280	20,637	21,345
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 農業集落排水普及率	%	22	23	23
	②				
	③				
投入コスト	決算額		1,019,140千円	934,241千円	840,472千円
		一般財源	54,910千円	49,849千円	21,096千円
			71,360千円	70,470千円	71,320千円
	人件費	一般職員の年間従事人数	10.0人	10.0人	10.0人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
	総コスト	(決算額+人件費)	1,090,500千円	1,004,711千円	911,792千円

事業を取り巻く環境	現在、農業集落排水処理区域を含む農村一帯において少子高齢化、都市部への人口流出といった状況が顕著になりつつあることから、今後施設の維持管理においても近接する処理区を統合するなど効率化、コスト縮減等を図る必要がある。
-----------	---

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	・根拠法令等により、市が設置するとなっている。 ・農業用水や河川の水質保全及び快適な生活環境を維持するためには必要(妥当)である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	公共用水域の水質保全を行うため、都市部に比較して普及率の低い農村地域の汚水処理施設の推進のためには有効である。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	B
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	農業集落排水事業は専門的な知識を必要とし、臨時職員等では対応できないため、職員による適正な現場の管理監督をすることにより効率性が上がる。老朽化した処理場の改築更新が、大きな財政負担となることから、流域下水道への接続等を検討しながらコスト縮減に取り組むたい。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	改善策	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
改善	A 現状のまま継続	現在、大仙市内において大曲地域の角間川地区・太田地域の三本扇地区で工事が行われており、平成24年度で終了予定である。今後、その2地区を含めた未接続世帯に対し速やかな排水設備への接続が行われるよう啓蒙活動を行い、早期に事業効果を発揮していく。 また、老朽化した処理場の機能強化計画をH25頃まで策定し、他事業との連携や改築更新について年次計画での対応が必要である。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	
	F 終了	